

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-120	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
234 TAC	商業234-904	原価計算 新訂版		

1. 編修の基本方針

- (1) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、原価計算の基礎につづいて、実際原価計算から標準原価計算、直接原価計算へと段階的に学習を進めることができるように編や章を設定・配置した。また、各章冒頭にその章で学習する内容をカラーイラストと短文で記載し、より深い理解を得られるようにした。(第1号)
また、そのイラストにおいては、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、男女の社員が協力し合いながら業務を進めている様子を示した。(第3号)
- (2) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、原価計算をとりまく場面や、お金の流れについて、より深い理解が得られるよう、解説部分にカラーイラストや図解を取り入れるとともに、勘定連絡を示し、仕訳の下には仕訳作成の思考プロセスを示すことにより、考え、理解しながら原価計算を学習できるようにした。(第1号、第2号)
- (3) 自主及び自律の精神を養うという観点から、例題を中心に、章末の取引まとめ、ミニテストまでの内容をつなげ、主体的に学習が進められるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するという観点と、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、「個別原価計算(部門別)」と「総合原価計算」について、実際に日本国内で作られている製品とその工場の現場の写真を使用した図解を示した。(第2号、第5号) また、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、総合原価計算表などの帳票類を工場の現場写真とあわせて示した。(第1号)	口絵1、2ページ 口絵3、4ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「原価とは」として、製造業だけでなく、サービス業における原価について、写真で示した。(第1号)	口絵6ページ
綴じ込み	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「部門別個別原価計算のまとめ」「工業簿記の勘定連絡のまとめ」として、全体の流れを俯瞰できるようにした。(第1号)	口絵5ページ ～綴じ込み (前)1～4、 綴じ込み(後 ろ)1～4

学習のまえに	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、原価計算の学習を通じて、未来のために貢献する必要性、その一助として活躍することに対する意義と期待について記述した。(第3号)	ま え づ け 《2》 ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、本書の構成を示すことで、主体的な学習ができるよう、配慮した。(第2号)	ま え づ け 《2》 《3》 ページ
第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記の勘定連絡	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、原価計算の基礎について図解を交えて記述した。(第1号)	1～34ページ
	自然を大切に、伝統と文化を尊重するとともに、創造性を培うという観点から、木目調のピアノや、ロボット・ドローンなどを例示に使用した。(第2号、第4号、第5号)	12、15ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、工業簿記の勘定連絡について一連の例題を通じて解説し、最後に記帳へとつなげた。(第1号)	19～33ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	7、17～18、 34ページ
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、費目別計算の数字の流れや帳簿の記入方法について理解を深めるため、例題と図解で示した。(第1号)	35～86ページ
第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費 第5章 労務費 第6章 経費	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号)	35～86ページ
	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、各費目の分類と例示につき、できるだけ実務に即して掲載した。(第2号)	36～38、56～ 58、76～78ペ ージ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「給与計算期間と原価計算期間のズレの調整」など「プラスα特別講義」示し、を本文とあわせて読むことによりより深い理解を得られるようにした。	63ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	53～55、73～ 75、85～86ペ ージ
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、個別原価計算、部門別計算、各種総合原価計算の、数字の流れや帳簿の記入	87～224ペー ジ
第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算		

<p>第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算と減損</p>	<p>方法について理解を深めるため、例題と図解（適宜、ボックス図やシュラッター図などを使用）、イラストで示した。（第1号）</p>	
<p>・仕損じの発生など</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。（第1号、第2号）</p>	<p>88～224ページ</p>
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、各種帳票と勘定の関係、各種帳票の作成手順、各種帳票の仕組みについて、図解で示した（第1号）</p>	<p>88～224ページ</p>
	<p>自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。（第2号）</p>	<p>116～124、 143～148、 178～183、 197～199、 218～224ページ</p>
<p>第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社工場間の取引</p>	<p>職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、製品の完成と販売、決算、本社工場間の取引について、実務に即して記述した。（第2号）</p>	<p>225～256ページ</p>
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、工業簿記の財務諸表作成における、数字の流れを示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。（第1号）</p>	<p>235～245ページ</p>
	<p>自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。（第2号）</p>	<p>232～234、 250～256ページ</p>
<p>第5編 標準原価計算 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2）</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、職業及び生活との関連を重視するという観点から、標準原価計算について、その手続きの流れの全体像を冒頭に示すとともに、それぞれの内容につき、図解やイラスト、例題を使用し、補足説明を側注の吹き出しに掲載することで、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。（第1号、第2号）</p>	<p>257～300ページ</p>
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、差異分析、勘定記入、財務諸表作成において手順や流れがわかりやすい図解で示した。（第1号）</p>	<p>269～294ページ</p>

	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	266～268、 295～300ページ
第6編 直接原価計算 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、全部原価計算と直接原価計算の損益計算書の比較や、CVP分析、損益分岐点売上高などについて、図解を用いて解説している。(第1号)	301～321ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、原価の固変分解(高低点法)、損益分岐点比率・安全余裕率について、発展学習として掲載した。その際、それまでの記述とシームレスな記述とし、図解をもちい、随時側注などで補足することで、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。(第1号)	316～319ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	307～308、 320～321ページ
総合問題	自主及び自律の精神を養うという観点から、第1編～第4編までの学習に対応した演習問題を掲載し、主体的な学習に資するものとした。(第2号)	322～327ページ
付録	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、本文中で学習した原価計算基準につき、掲載した。(第1号)	328～343ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、補足事項を側注の吹き出しに掲載し、多角的に理解できるようにした。
- ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんだ我が国と郷土を愛する態度を養うという観点から、各編の色づかいにつき、日本の伝統色に配慮して選択するとともに、日常の取引はオレンジ系、決算は黄緑系と、学習内容に応じた色選択をした。
- ・植物油インキを使用し、環境に配慮した。

(備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。

2 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。

3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。

① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第〇号)

② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：〇ページ)を記入する。

③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。

4 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。

5 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。

6 別紙様式第5-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-120	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
234 TAC	商業234-904	原価計算 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色																															
<p>実社会における企業で何が行われているのを把握し、原価計算に関する会計処理や原価情報の活用につき、適正に行う力を養成するという観点から、以下のような工夫を施して編修している。</p> <p>○第1編「原価計算の基礎」につづいて第2編以降で、実際原価計算、標準原価計算、直接原価計算へと段階的に学習を進められるように構成に配慮した。</p> <p>○各章の冒頭では、これから何を学習するのかという導入部分につき、2コマイラストと文章で解説を加えた。その際、すでに学習した内容との関わりもあわせて解説することで、その都度知識の整理がはかれるようにした。</p> <p>○数字の流れや全体像を追いながら学習できるように、適宜、手順化し、図解を多用した。</p> <p>○帳簿や財務諸表類を解説する際には、図解化するとともに、金額の流れについて矢印などで、学習者が容易に理解できるようにした。</p> <p>○間違いやすい箇所や重要なポイントについては、側注の吹き出しや囲み記事により、別角度からの解説を加えた。また、書籍内であわせて読むと理解が深まる箇所については、当該箇所を明示することで学習に役立てられるようにした。</p> <p>○例題を中心に、章末のまとめ、ミニテスト、巻末の総合的な記帳問題までの内容をつなげ、これらを利用して反復的に学習することで、学習内容の定着が図れるようにした。</p> <p>○冒頭や巻末の口絵には、各種原価計算のイメージの図解を掲載し、製造業をめぐる実際についてイメージしやすいようにしている。</p>																															
2. 対照表																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>図書の構成・内容</th> <th>学習指導要領の内容</th> <th>該当箇所</th> <th>配当 時数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1編 原価計算の基礎</td> <td rowspan="3">(1) 原価と原価計算 ア原価の概念 イ原価計算の特色と仕組み</td> <td rowspan="3">1-34ページ</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td>第1章 原価と原価計算</td> </tr> <tr> <td>第2章 原価計算のあらまし</td> </tr> <tr> <td>第3章 工業簿記の勘定連絡</td> <td></td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>第2編 原価の費目別計算</td> <td rowspan="3">(2) 原価の費目別計算 ア材料費の計算 イ労務費の計算 ウ経費の計算</td> <td rowspan="3">35-86ページ</td> <td rowspan="3">9</td> </tr> <tr> <td>第4章 材料費</td> </tr> <tr> <td>第5章 労務費</td> </tr> <tr> <td>第6章 経費</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第3編 原価の部門別計算と製品別計算</td> <td>(3) 原価の部門別計算</td> <td>87-224ページ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数	第1編 原価計算の基礎	(1) 原価と原価計算 ア原価の概念 イ原価計算の特色と仕組み	1-34ページ	1	第1章 原価と原価計算	第2章 原価計算のあらまし	第3章 工業簿記の勘定連絡			7	第2編 原価の費目別計算	(2) 原価の費目別計算 ア材料費の計算 イ労務費の計算 ウ経費の計算	35-86ページ	9	第4章 材料費	第5章 労務費	第6章 経費			3	第3編 原価の部門別計算と製品別計算	(3) 原価の部門別計算	87-224ページ	
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数																												
第1編 原価計算の基礎	(1) 原価と原価計算 ア原価の概念 イ原価計算の特色と仕組み	1-34ページ	1																												
第1章 原価と原価計算																															
第2章 原価計算のあらまし																															
第3章 工業簿記の勘定連絡			7																												
第2編 原価の費目別計算	(2) 原価の費目別計算 ア材料費の計算 イ労務費の計算 ウ経費の計算	35-86ページ	9																												
第4章 材料費																															
第5章 労務費																															
第6章 経費			3																												
第3編 原価の部門別計算と製品別計算	(3) 原価の部門別計算	87-224ページ																													

第7章	個別原価計算	と製品別計算		11
第8章	部門別個別原価計算	ア個別原価計算と製造 間接費の計算		11
第9章	総合原価計算	イ部門別個別原価計算 ウ総合原価計算		14
第10章	工程別総合原価計算			6
第11章	総合原価計算と減損・仕損じの発生など			5
第4編	製品の完成・販売と決算	(4) 内部会計	225-256ページ	
第12章	製品の完成と販売	ア製品の完成と販売		3
第13章	決算と本社工場間の取引	イ工場会計の独立 ウ製造業の決算		6
第5編	標準原価計算	(5) 標準原価計算	257-300ページ	
第14章	標準原価計算 (その1)	ア標準原価計算の目的 と手続		3
第15章	標準原価計算 (その2)	イ原価差異の原因別分析		8
第6編	直接原価計算	(6) 直接原価計算	301-321ページ	
第16章	直接原価計算 (その1)	ア直接原価計算の目的 と財務諸表の作成		2
第17章	直接原価計算 (その2)	イ短期利益計画への活用		5
計				105

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：〇～〇ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要な教科、種目については空欄でよい。
- 5 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 6 別紙様式第5-2号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-120	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
234 TAC	商業234-904	原価計算 新訂版		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
316頁～ 317頁	第17章 5 原価の固定分解	1	「管理会計」 (2) 短期利益計画 ア 原価予測の方法	2
318頁～ 319頁	第17章 6 損益分岐点比率と安全余裕 率	1	「管理会計」 (2) 短期利益計画 イ 損益分岐分析と感度分析	2
合 計				4

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。
- 2 「ページ」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述の掲載ページを示す。
- 3 「記述」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述に付された表題等を示す。
- 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。
- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
 - ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2
- 5 「関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項」欄には、当該学年等の学習指導要領の内容や内容の取扱いに示すどの事項と関連があるのか分かるように記入する。
- 6 「ページ数」欄には、発展的な学習内容の記述が掲載されているページ数を記入する。ページの数え方は以下のとおりとする。「合計」欄には発展的な学習内容の記述の合計ページ数を記入する。
- ・ 0. 2.5ページ以下… 0. 2.5ページ
 - ・ 0. 2.5ページを超えて0. 5ページ以下… 0. 5ページ
 - ・ 0. 5ページを超えて0. 7.5ページ以下… 0. 7.5ページ
 - ・ 0. 7.5ページを超えて1ページ以下… 1ページ
- 7 別紙様式第5-3号の分量は2ページ以内とする。